

14 Dec. 2011



第41号

# JAAGA だより

日米エアフォース友好協会  
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷  
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

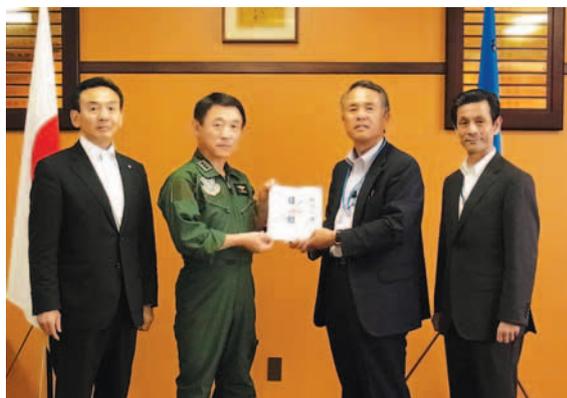
ホームページ：http://www.jaaga.jp

## レッド・フラッグ・アラスカ演習参加隊員を激励

6月27日（月）、織田、上田、山本（康）理事が中部航空方面隊司令部を訪れ、米空軍演習（レッド・フラッグ・アラスカ）参加者に対する激励品を石野中部航空方面隊司令官に託し、訓練の成功を祈念した。司令官からは、「継続的なご支援に感謝します。訓練部隊の出発時に隊員に紹介し、訓練の成功に役立させていただきます」との感謝の意が表せられた。

今年度は6月27日（月）から7月29日（金）の間、航空総隊及び航空支援集団からF-15J×6機、E-

767×1機、C-130H×3機、KC-767×2機、携SAM 追従訓練器材×6セット、人員330名が、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエルメンドルフ・リチャードソン米軍統合基地並びに周辺空域等において実施される同演習に参加し、防空戦闘訓練、基地防空訓練、戦術空輸訓練及び空中給油訓練を実施した。尚、F-15の展開が遅れ、演習への途中参加となったことから、今回初めての実施を予定していた日豪による対戦闘機戦闘訓練は中止となり、日豪による編隊飛行が実施された。（山本康正理事記）



JAAGA Dir. Orita, Ueda and Yamamoto visited Lt.Gen. Ishino, Commander of Central Air Defense Force, in Iruma AB on June 27th.



Formation flight by JASDF and Royal Australian Air Force



C-130H, JASDF, flying over Mt. McKinley



Warriors of JASDF, USAF and RAAF who participated in the Red Flag Alaska Exercise in Eielson AFB, Alaska.

## 日米下士官相互部隊研修参加隊員を激励

10月13日（木）、香川理事長、笠原、山本（康）理事が空幕人事教育部長杉山空将補を訪ね、平成23年度日米相互部隊研修（米空軍下士官の受入れ）の参加隊員を激励した。

本研修は、平成7年度に開始されて以来17年目を迎えており、JAAGAとしては、平成17年度から激励品を手交するという形で支援を実施している。

今年度の空自での受け入れ計画は、下表の通りである。尚、空自隊員の米軍部隊研修は4／四半期に実施される予定である。

受入基地	期 間	差出基地	参加人員
築 城	10.18～10.27	嘉手納	7
未 定	3／四、4／四半期	三 沢	7
美 保	3／四、4／四半期	横 田	7

人教部長からは、平成22年度は、東日本大震災の影響を受け、予定されていた空自隊員の米軍部隊研修の一部が中止となったが、日米相互理解に重要な研修であり、年々充実してきているとの説明とともに、JAAGA からの継続的な部隊への支援を大変有難く思っているとお礼が述べられた。（山本康正理事記）



Chief Dir. Kagawa and Dir. Kasahara, Yamamoto, JAAGA, visited Maj. Gen. Sugiyama, Air Staff Office, on Oct. 13th.

## 米空軍軍人のねぶた祭参加を支援

真夏の東北最大の祭り「青森ねぶた祭」に8月6日（土）米軍三沢基地司令ラスティーン大佐をはじめ、各群司令及びその家族34名とJAAGA 三沢支部長の丸山の家族、事務局長の山本夫妻が参加した。今年3月の東日本大震災からの復興を願って、「がんばろう東北」のスローガンのもと全国からの観光客が熱気あふれる声援を送る中、参加者一同ラッセラー、ラッセラーのかけ声で跳ねて、祭りを堪能した。

（丸山三沢支部長記）



Nebuta Festival in Aomori city on Aug. 6th : 34 American people, including Col. Rothstein, 35th FW Commander, enjoyed the festival.

## 関東スペシャル・オリンピックスを支援

今回で32回目を迎える関東スペシャル・オリンピックスは、東日本大震災への配慮から今年の実施が危ぶまれたが、関係者の暖かい思いが実って9月10日（土）に無事開催された。

残暑が厳しい天候のもと、日米両国歌の独唱で開会式が始まった。大会委員長である第374任務支援群司令フリース大佐の開会挨拶の後、加藤福生市長、並木羽村市長が大震災へのアメリカの支援に対する感謝も含めて選手たちへの激励の祝辞を述べた。続いて、支援団体等代表者紹介と感謝状の授与、そして日米両国旗を先頭にボランティアの支援を受けた選手達の入場行進が行われた。日米選手代表による選手宣誓“LET ME WIN. BUT IF I CANNOT

WIN, LET ME BE BRAVE IN THE ATTEMPT”に続き、聖火が点火され、開会式は大いに盛り上がった。

今年は実施が延期されたこともあり、参加選手が250人強と例年に比べて少なくなった。また、大震災での災害派遣の影響が残り、関東各地の陸自駐屯地、海自基地、空自基地からの准曹士の人達を中心にした支援が勤務上都合が付かず、皆無の状態であった。大会の運営にも若干戸惑いの感があったが、400メートル・リレーから競技が開始されると、選手達の歓声が沸き上がり、いつものように楽しそうな様子が伺えた。

来年は支援の手が戻っていることを願って、榎副会長と共に会場を後にした。（阪東理事記）



Entrance march in the opening ceremony of 32nd Kanto Special Olympics in Yokota AB on Sep. 10th



Lighting of the Olympic flame platform



JAAGA Vice President Enoki with Col. Freece, 374th MSG Commander, and Ms. Sato, Special Olympics Committee

## スペシャル・オリンピックス(三沢)を支援

9月10日（土）10時から米軍三沢基地において、第25回スペシャル・オリンピックスが開催された。開催に先立ち、JAAGAからの支援品を基地司令のラストイーン大佐に三沢支部長の丸山から手交し、基地司令から米軍の活動に対するJAAGAの支援について感謝の言葉があった。当日は、さわやかな秋晴れの下、基地近隣の施設から招待された約60名のアスリート、基地司令以下約300名の米軍ボランティアと日本人通訳約40名が参加し、各種競技を楽しんだ。（丸山三沢支部長記）



Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch, and Col. Rothstein, 35th FW Commander, on Misawa Special Olympics on Sep. 10th

## SPORTEX'11A 開催



Players in SporTEX'11A: 78 JAAGA and USAF members, including Vice President Yoshida and Lt.Gen. Field, enjoyed the golf game in Tama Hills GC on Sep. 29th.

9月29日(木)、SPORTEX'11Aが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。JAAGAからは榎、吉田副会長をはじめ正会員及び賛助会員の計49名、米軍からはフィールド第5空軍司令官以下スタッフ等23名が競技に参加し、また日米双方3名が競技の支援を行った。

5時前から参加者が集合し始め、クラブハウスでの朝食、ドライビング・レンジでの練習の後、6時半から開会式が行われた。榎副会長からは、「今日は素晴らしい天候、キーポイントはスキルとハート。一日楽しんでください」との挨拶があり、また、フィールド司令官からは、感謝の言葉と「ゴルフをすることは、仕事よりは楽しいと思います。皆さん楽しんでください」との挨拶があった。

開会式後、それぞれのスタート・ホールへ移動し、7時、一斉に競技が開始された。絶好のコンディションの中、日米友好親善の和やかな雰囲気の中で競

技が進行した。競技終了後は、プレーの反省も含め、歓談しながらの昼食となった。その後、成績発表、表彰式が行われ、優勝、準優勝、第3位、飛び賞、ブービ、ベスト・グロス、ドラコン、ニアピン各受賞者に賞品が贈られた。また、榎副会長、司令官からは、それぞれ特別賞が贈られた。

閉会にあたり、榎副会長から、米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ場関係者

へのお礼の挨拶があった。また、司令官からはスタッフ等への感謝の言葉と「素晴らしい天気のもと素晴らしいスポルテックスになりました。有難うございました」との挨拶があった。最後に、吉田副会長からはお礼の挨拶と、「本スポルテックスの他、米空軍とJAAGAとの友好親善は様々な機会に促進されてきているが、AFA総会等に参加したこの度の訪米においても素晴らしい経験をした。ハワイではノース大将の歓迎を受け、ワシントンではマイヤーズ、エバハート、ヘスター各氏及びそれぞれの奥様方の歓迎を受けた。さらには、ライス大将も駆けつけて来られ、「ディナーを共にした」旨の話があった。(源理事記)



Party after the game in the clubhouse

## 横田基地米国独立記念祭に参加

7月2日(土)、米軍横田基地において、2011年米国独立記念祭が第374空輸航空団司令フェザー大佐主催により行われた。空自からは、府中基地司令、准曹士先任等が参加していた。JAAGAからは、阪東理事及び桃木理事夫妻が参加した。15番格納庫横の野外来賓専用特設エリアでは、ハンバーガー、ホット・ドッグ、チキンなどが提供された。ランプ地区ではバイクの曲乗りや小動物とのふれあい広場などが設けられ、米軍人とその家族、招待者等とともに、イベント、音楽と食事を楽しんだ。その他、格納庫周辺では沢山のイベントが行われ、ゴーカート乗り場、子供の遊び場、動物ふれあい広場、抽選会場など、多くの家族連れで賑わっていた。様々なイベン

トを楽しみつつ、横田基地の皆さんとともに米国独立記念祭を堪能した。(桃木理事記)



JAAGA Dir. Bando and his wife with Lt.Gen. Field and Col. Knight, Vice Commander of 374 AW, in the US Independent Day Festival, Yokota AFB on July 2nd

# 「つばさ会・JAAGA 訪米団」参加報告

つばさ会及びJAAGAを代表して、日米両空軍の友好親善の推進を図る平成23年度の訪米団は、吉田正 JAAGA 副会長を団長とする4名で、9月11日から23日までの間、ワシントンで開催されるAFA（米空軍協会）年次総会への参加に併せてハワイ所在の太平洋軍、太平洋空軍、太平洋海軍、第13空軍司令部、ネバダ州所在のネリス、クリーチ空軍基地及びワシントン DC 所在の国防総省を訪問した。

日米両国間には、普天間基地問題を初め懸案が山積しているものの、本訪問間、多くの現役高官の方々や退役された元在日米軍司令官等の在日米軍基地勤務経験者の方々との交流を通じ、日米空軍相互間の絆の強さを再確認すると共に、米空軍の現状と将来

に亘る動向を把握することができた。

本訪問を通じて、それぞれの訪問先での訪問の狙いや印象に残った事項について簡単に紹介したいと思う。

ハワイでは、米軍の新コンセプト「Joint Air-Sea Battle Concept（以後 JASBC と略）」の方向性を確認すると共に、東日本大震災でのトモダチ作戦を通じた協力への感謝の意を伝えることを主眼に、太平洋軍を初めとする各司令部を訪問した。特に太平洋艦隊司令部を JAAGA 訪問団として初めて訪問し、ニミッツ記念ホールを見学すると共に、ウォルシュ太平洋艦隊司令官と充実した意見交換ができた。またノース太平洋空軍司令官との懇談では、



JAAGA delegation, including Vice President Yoshida, and Gen. North, Commander of PACAF, in Hickam AFB, Hawaii



Unmanned Air Vehicle Predator in Creech AFB, Nevada



JAAGA Dir. Hori, Fujii and F-16 pilots in Nellis AFB, Nevada



JAAGA delegation and Lt.Gen. Field in the general assembly of AFA

JASBCの今後の趨勢と航空総隊司令部の横田移転後の戦力運用の動向について意見交換すると共に、予算の削減に関連して、来年には第13空軍が解隊されることが明らかにされた。

ネリス基地では、コープ・ノース・アラスカやグアムでの日米共同演習に関連して、レッド・フラッグ演習等の将来動向を把握することを主眼に、ネリス基地所在部隊を研修したが、これまでのレッド・フラッグ演習だけではなく、宇宙（スペース・フラッグ演習）、サイバー（サイバー・フラッグ演習）への備えを重視していることが確認できた。

クリーチ基地では、無人航空機プレデターの運用、教育訓練の状況を確認することを主眼に研修を行ったが、クリーチ基地を拠点に、通信衛星や海底通信ケーブルを活用して、全世界でプレデターを運用し、多大な成果を上げつつ、同時に教育訓練にも取り組んでいることを確認した。私達もシュミレーター訓練を体験できたが、主翼の形状や長距離通信によるタイムラグ等により、操縦が難しいとの印象を受けた。

次にAFA総会であるが、今年も3日間約6,000人が参加して開催され、幅広いテーマで活発な意見交換が行われていた。特にフィールド在日米軍司令官のトモダチ作戦に関する意見交換では、トモダチ作戦は、作戦当初から日米間の連携が円滑に機能したことから成功裏に進捗したこと、及び福島原発事故発生以降、在日米国人の国外避難に最大限の努力を

払い、最終的に2万人を海外に移送したとのコメントが印象的であった。また広大な展示ホールでは、最新の航空宇宙関連技術が展示され、航空宇宙戦力の将来動向を垣間見ることができた。特にF-35とKC-46（KC-767の米軍名称）の展示が印象に残った。

国防総省の訪問では、統合参謀本部や空軍司令部の主要な幹部と意見交換をしたが、在日米軍基地勤務経験者が主要ポストを占めており、在日勤務時の思い出話で雰囲気が和んだこともあり、充実した意見交換ができた。今回の松島基地のF-2被害に伴うパイロット教育の米国受け入れに当たっては、米教育空軍司令官ライス大将（元在日米軍司令官）の存在ばかりでなく、空軍司令部の主要なポストに在日米軍基地勤務経験者が就いていることが背景にあることが確認できた。

また懇談の席では、日米同盟の重要性や航空自衛隊との間での連携が非常にスムーズにしていることを強調する発言が相次いだ。特に異口同音に「日米間の軍人同士の信頼関係は特に強くて良好である」と言われ、OB、現役を問わず、人のつながりが日米安全保障条約の下での大きな財産になっていることを実感した。

終わりに、今次訪米に際して、各方面で協力、支援していただいた関係各位に心より感謝申し上げたい。  
(藤井理事記)



JAAGA delegation and Maj.Gen. Hikita, air attache to the Japanese embassy, with Lt.Gen. Carlisle, Deputy Chief of Staff A3, HQAF



JAAGA members met their old friends, ret. Gen. Myers, Eberhart, Hester, Gen. Rice and their wives in a restaurant, Washington DC.

## 横田基地日米友好祭に参加

今年の横田基地・日米友好祭は、8月20日（土）、21日（日）の二日間にわたって開催された。前線の南下により週末になって猛暑から秋の気温に一変し、例年にない涼しい日和となった。

第374空輸航空団司令フェザー大佐夫妻主催のレセプションは、21日（日）13時から、友好祭会場内の459空輸中隊格納庫（半野外）で行われた。今までは、将校クラブや下士官クラブで行われていたが、横田基地と周辺市町友好協会等との交流が近年目覚ましく活発になり、十分な受け入れが出来るように格納庫スペースに場所を移したということである。工夫を凝らした立派な会場設営がされて、賑々しい交流の場となっていた。航空自衛隊からは、着任早々の府中基地司令日吉章夫1佐夫妻、また、空自イラク派遣空輸部隊でフェザー大佐と当時クウェートで勤務を共にした半澤和弘1佐、松永耕二1佐、北村靖二1佐が招待を受けて列席していた。JAAGAからは、桃木理事夫妻、高橋健二理事、石川会員夫妻、山岡会員及び阪東理事夫妻が参加した。レセプシ

ョンの途中でフェザー大佐から直接主要な招待者の紹介があり、日米の信頼関係構築にこれからも努める旨の挨拶が終わった途端、帰投準備を始めた地上展示機のジェット・エンジン排気ガスが格納庫会場内に流れ込んで来て、少々ワイルドな演出効果を上げていた。  
(阪東理事記)



JAAGA members and their friends with Col. Feather and his wife in the Japanese and American Friendship Festival in Yokota AFB on Aug. 20th

## 横田基地エアフォース・ボール／米空軍創設64周年祝宴に参加

米陸軍航空隊から米空軍として独立し今年で64周年を迎える大祝宴が、9月17日（土）に横田基地・太陽コミュニティ・センターを会場として開催された。ちなみに、第5空軍は第2次大戦初めの1941年にフィリピン部隊空軍として創設されて70周年を迎えており、第374空輸航空団は1948年にグアムで創設されていて63周年目となっている。

国旗入場、日米国歌独唱、主催者の横田基地司令ポール・フェザー大佐の開式の辞に続いて、主賓の第5空軍司令官 パートン・フィールド中将が紹介された。第5空軍司令官は、米空軍の生い立ちについて述べ、第5空軍が今年で70周年の節目を迎えることについて触れた後、主に第374空輸航空団の最近の活躍について振り返り、特に東日本大震災に伴う“Operation TOMODACHI”でその功労について具体的に紹介し、感謝の意（Thank You!）を示された。当該部隊、将兵個々の名前が呼ばれる度に会場からそれぞれを称える歓声が沸き上がり、会は益々盛り上がりを見せた。終わりに、フィールド中将、フェザー大佐そして新入隊ピカピカの一本線階級章エアマンが64周年バースデイ・ケーキに入刀して米空軍の誕生を祝った。

フェザー大佐が会場に向かって「皆さんはロックンロールが好きですか？」の呼びかけに合わせ太平洋空軍バンドのリズムが響き始め、宴会の部に移った。ここ数年で非常に盛況となったエアフォース・ボールであるが、スペシャル・オリムピックスと同様に、大震災に伴う自衛隊の災害派遣等の関係からか、例年より自衛隊関係者の顔ぶれが少なかったように感じられた。JAAGAからは、石川会員、山岡会員それに阪東理事夫妻が参加した。（阪東理事記）



Mr. Ishikawa, a JAAGA member, Mr. Bando and his wife with Lt. Gen. Field and his wife in Air Force Ball, Yokota AFB, on Sep 17th

# JAAGA 会員の横田基地研修



JAAGA members with Lt.Gen. Field in his office on JAAGA Yokota tour

9月30日（金）、JAAGAの正会員及び賛助会員による横田基地研修が実施された。今回は団長齋藤芳信氏以下正会員6名、賛助会員22名、JAAGA理事4名、合計32名の会員が参加した。参加者の中には横田基地は初めてということで、本研修を大変楽しみにしていたという会員が多かった。また、東日本大震災における米軍の「トモダチ作戦」をみて、是非参加したいと思ったという会員も見受けられた。

当日の天気は薄曇り、全員が9時半までに福生駅に集合し、米軍のバスで横田基地へ向かった。到着後、研修団長齋藤氏、副団長星野元宏氏及び理事2名が第5空軍司令官フィールド中将を表敬訪問し懇談した。続いて、ブリーフィングルームにおいて司令官及び第5空軍の主要スタッフを交え、在日米軍や第5空軍の編成、任務、部隊史等について説明を受けた。部屋に入ると、すぐ青色の大きな大漁旗が目に見え、目を飛び込んできた。基地広報部のパウエル大尉の話によると、仙台市民から米軍の支援に対する感謝の書き込みの入ったこの旗をいただいたということであった。ブリーフィング後、バスに乗車して基地内を見学し、改めて横田基地の広大さと施設の充実ぶりを実感した。

昼食会は、JAAGA主催によりオフィサーズ・クラブで行われた。第5空軍副司令官レイモンド准将、横田基地司令フェザー大佐、米軍スタッフ等が招待され、終始和やかな雰囲気の中で催された。

午後からは第374輸送航空団を訪問し、横田基地の歴史や部隊の任務、トモダチ作戦の概要等について説明を聞いた。冒頭、フェザー大佐からトモダチ作戦について、米軍及びその家族は日本の友人として当然のことをやったまでだと思っているという心のこもった挨拶があり、その謙虚な態度に多くの

会員が感動を新たにしていた。その後、エプロンに駐機しているC-130を訪れ、貨物室からパイロット席まで詳しい説明を受けた。

研修の最後に訪れたのはAFN (American Forces Network) の名前で親しまれている米軍の放送局である。ここでは、AFNの人気アナウンサーでもある米軍人及び女性スタッフの案内によりスタジオを見学し、ラジオやテレビの番組作成要領等について説明を受けた。かつてAFNがFEN (Far East Network) と呼ばれていた頃、その放送を聞いたことのある会員も多く、終始興味深く説明に耳を傾けていた。

1630頃、予定の時間をだいぶオーバーして横田基地を後にした。本研修を通じて、参加者は米軍人や部隊の雰囲気といったものに直接触れることができ、在日米空軍等に関する理解と親密度をより一層深めることができたのではないかと思う。研修団の受入れに熱心に取り組んでいただいた基地広報担当スタッフに心から感謝したい。(古畑理事記)



Mr. Saito, Head of JAAGA tour group, with Col. Feather at HQ of 374 AW on Sep. 30th



JAAGA and USAF members in front of C-130, Yokota AFB

# 米空軍士官学校学生との交流会



JAAGA Directors, Lt.Col. Abe(far right) with USAF Academy cadets Evelyn Abbate and Robert Raynor (center left, right) at Edo-Tokyo Museum in Sumida Ward

米空軍士官学校から防大への留学生ロバート・レイノア学生、エイブリアン・アン・アベイテ学生2名とJAAGA会員との第1回交流会は、10月29日(土)、JAAGAから永岩、堀、安宅各理事、渡邊会員と、最近まで米空軍士官学校勤務であった阿部2佐の協力を得て7名で実施した。

当日は快晴で、絶好の行楽日和となった。まずJR両国駅で合流し、店内に土俵が設えてある会食場で日本料理を楽しんだ後、江戸東京博物館を研修した。日本人形専門店で可愛い日本人形を見た後、下町の風情が色濃く残る人形町から隅田川沿いにスカイツリーを見ながら散策。健脚を誇る役員の方々もやや疲れ気味であったが、スカイツリーの建設

現場まで移動し、快晴の青空にそそり立つスカイツリーを見上げて大いに楽しんだ。

スカイツリー建設現場の研修の後、電車で泉岳寺まで移動し、赤穂浪士47士の墓所を研修した。英語の堪能な理事の皆さんが、入れ代り立ち代り、日本語と英語で忠臣蔵について説明したが、武士道についてはなかなか理解してもらえないようで、折りよく境内にあった英語版の参考資料を提供し、自己研鑽を奨励した。

最後は、品川駅近くの、静かな居酒屋で夕食会。JAAGA役員の皆さんは長時間の徒歩移動でかなり疲れ気味であったが、さすがに2名の留学生と阿部2佐は元気で、2時間の楽しい夕食会もあっという間に過ぎ、大いに満足してもらえたものと思う。防大留学期間中の良い思い出として留学生の心に残れば幸いである。

今年度の留学生に対する日本文化研修等の支援は今回で終了したが、学生は、12月下旬まで在校し、クリスマス前に帰国予定である。来年度も8月から12月までの間、次の留学生が来校予定であるので、ホストファミリーを含めて会員の皆様のご協力をよろしく願いたい。(安宅理事記)



At Tokyo Sky Tree in Sumida Ward. It is 634m high, one of the world's tallest broadcasting tower, and planned to be open on May, 2012.



At graveyards of Ako incident's 47 samurai in Sengakuji temple, Minato ward. It is the most famous story of revenge in the Japanese history occurred in Edo era.

## 新入会員紹介

### 1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
小出 守 氏	埼玉県和光市	木村 孝 氏	埼玉県新座市
岩下 寛 氏	埼玉県和光市	森下 一 氏	千葉県柏市
長島 修照 氏	茨城県小美玉市	渡邊 至之 氏	埼玉県春日部市
糸永 正武 氏	埼玉県狭山市		

### 2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
田中 穰 氏	東京都福生市	田村 実 氏	東京都羽村市
吉井 輝男 氏	埼玉県草加市	佐々木 吉夫 氏	福岡県南区

## 会員募集

今期は関係各位のご努力で正会員7名、個人賛助会員4名、合計11名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が241名（23.12.15現在）と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

#### 【入会資格】

正会員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

#### 【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F  
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○（会社）メール、電話

石渡 幹生：m-ishi@shimadzu.co.jp 03-3219-5638

松田 和彦：kazuhiko\_matsuda@mhi.co.jp 03-6716-4433

美馬 博：h-mima@zp.jp.nec.com 03-3353-9720

金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp 03-5531-8061

## 編集後記

◇1996年に発足した日米エアフォース友好協会（JAAGA）は、今年15周年を迎えました。当初、記念行事を開催し15周年の節目を祝うこととしておりましたが、残念ながら3月11日に発生した東日本大震災により中止となりました。この他、米空軍軍人の日光研修も中止となり、今回のJAAGAだよりは10ページと、いつもに比べて薄めになりました。

◇本号では、防衛大学校（神奈川県横須賀市）に留学中の米空軍士官候補生との交流会の様子が紹介されております。江戸東京博物館、スカイツリー、泉岳寺等を巡り、江戸時代から今日に至る日本の歴史の一端に触れたことは、彼らの日本に対する理解を深める一助になったのではないかと思います。訪米団参加報告でも在日米軍勤務経験者の活躍が述べられておりますが、今後の留学生の活躍にも期待したいと思います。（編集子）